

平成 27 年 5 月の解説（府県天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過し天気は数日の周期で変わりましたが、北・東日本を中心に低気圧の影響は弱く、移動性高気圧に覆われる日が多くなりました。このため、全国的に晴れの日が多く、北・東日本の日照時間はかなり多くなりました。また、北・東日本の気温は、日照時間がかなり多かったことに加えて、日本の北を通過した低気圧に向かって南から暖かい空気が流れこんだため、かなり高くなりました。一方、1 日には、上空に寒気を伴った低気圧の影響で大気の状態が不安定となり、九州南部では局地的に猛烈な雨が降りました。

中旬は、北日本付近を短い周期で低気圧が通過したほか、11 日から 12 日にかけて台風第 6 号が沖縄・奄美付近を北上した後、四国沖で温帯低気圧に変わりました。このため、北日本から西日本にかけての天気は数日の周期で変わり、台風や低気圧の影響で広い範囲で大雨となり、北日本日本海側では降水量がかなり多くなりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、旬の終わりに梅雨前線が沖縄・奄美付近に停滞し、沖縄・奄美が梅雨入りしました。

下旬は、低気圧が日本の北を通過することが多く、本州付近は移動性高気圧に覆われたため、北日本から西日本にかけて晴れる日が多くなりました。そのため、北・東日本と西日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。また、南西からの暖かい空気が流れ込んだため、北・東・西日本の気温がかなり高くなりました。一方、沖縄・奄美付近では梅雨前線の活動が活発になったため、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなり、大雨となったところもありました。

月平均気温は、全国的にかなり高くなりました。55 地点で 5 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。また、月降水量は、東日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本、東日本日本海側で少なくなりました。月間日照時間は、北・東日本でかなり多くなり、西日本で多くなりました。

【5 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）と同じ 85% で、明後日予報は例年値より 1 ポイント低い 80% でした。各地方の適中率では、明日予報は、北陸地方が 7 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率は、北陸地方が 8 ポイント高くなった一方、西日本の各地方で 6～14 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.4 小さい 1.6 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなり、東北、北陸、中国の 3 地方で 0.5～0.7 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7 月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期であり、大きな災害が発生することもあります。

梅雨末期の大雨は、長時間の雨により総降水量が多くなることに加え、短時間強雨により大きな災害をもたらすことがあります。このような天気が予想される場合は、最新の気象情報や警報・注意報などに留意してください。